

【 From Kobe 2020 師走 12月 コロナ禍の中で 】 2020. 12. 5.

コロナ禍の3波が急速に拡大、出口が見いだせない中で一年が過ぎてゆく
街も家中也「3密」自製のコロナに振り回された一年 師走の雰囲気もなし
残念ながら神戸ルミナリエも中止、クリスマス飾りも控え目
でも 神戸にはルミナリエに託した思いがふつふつと・・・

●収録

収録1 コロナ感染者急増の3波襲来の中で、もう一度基本を問い直おそう

コロナ禍2波がやっと峠を越えてほっと一息。
みんなの「3密」行動節制が緩んで具体的な感染拡大の防止施策が示されぬ中で
東京発信の樂觀情報 経済と感染防止両立の大キャンペーン go to travel
これらが都市部の気のゆるみを誘発し、人の移動接触の急増を招き、
3波襲来 感染の急拡大を招いている
コロナ感染者急増の3波襲来の中で、もう一度基本を問い直おそう

今年一年 いろんな思いが駆け巡る師走 2020 12月 師走の神戸便り届けます



コロナ禍の3波が急速に拡大、出口が見いだせない中で一年が過ぎてゆく
街も家中也「3密」自製のコロナに振り回された一年 師走の雰囲気もなし
残念ながら神戸ルミナリエも中止、クリスマス飾りも控え目
でも 神戸にはルミナリエに託した思いがふつふつと・・・

一年お付き合いありがとうございました
また一年来年もよろしくご指導お願いします



新型コロナウイルスの猛威が止まらぬ師走 収束の道はみんなの願い・
医療従事者の皆さんの寝食をいとわぬ対応で、なんとか持ちこたえている現状
医療現場の皆さんへ ありがとう 御身も大切に!! がんばろう 日本!!

2020 紅葉 コロナ禍の中 色付きは遅れましたが、美しい景色が見られました

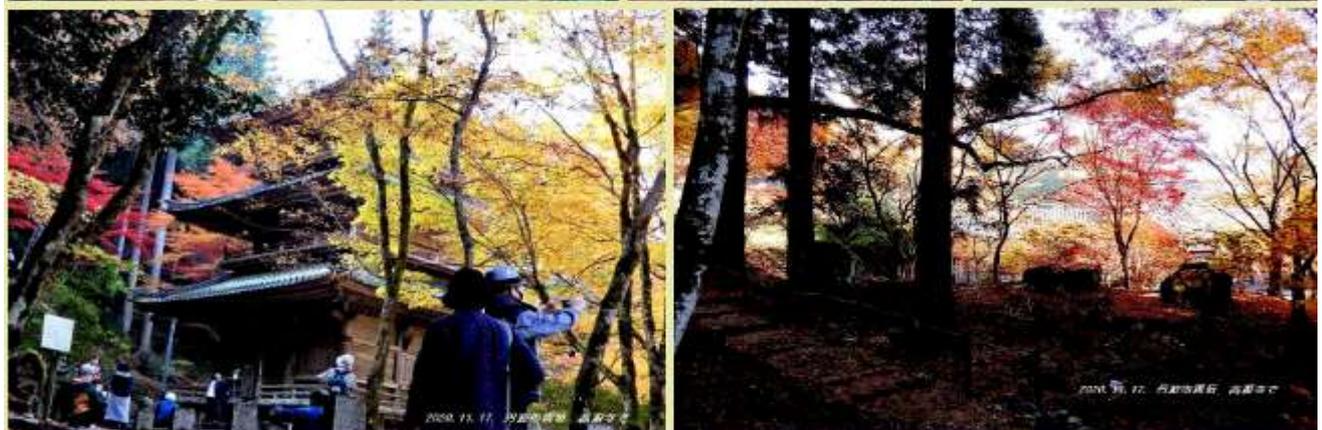
コロナ禍 行動自主規制の中 ほっと一息 丹波・但馬の山里の紅葉見物に



2020.11.27. 真っ赤に色付いた名谷ニュータウンの街で



秋晴れの朝来市与布土の郷 但馬/丹波の境 栗鹿山の空に美しい翳雲 穴は開いてませんが…2020.11.17.



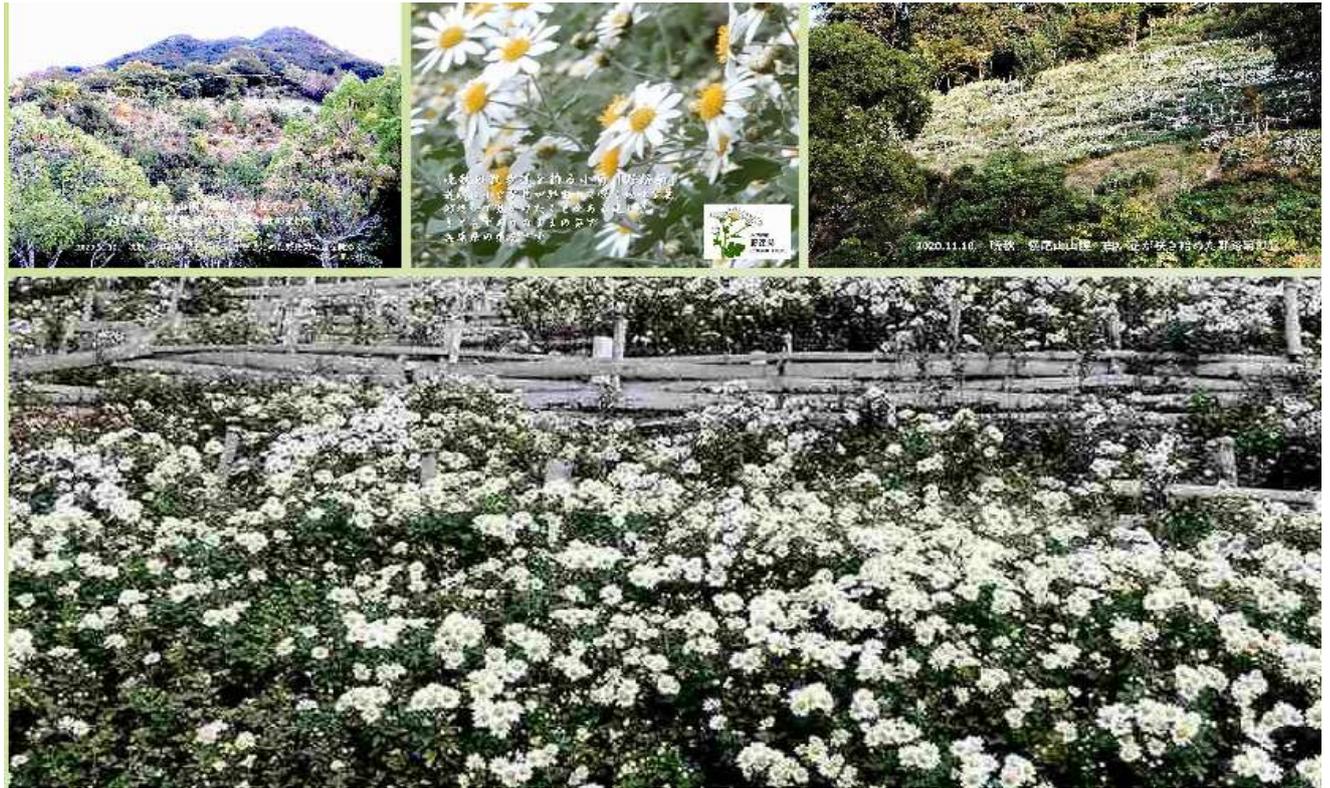
丹波の紅葉の名所 青垣 高源寺の紅葉 2020.11.17.



但馬朝来市 和田山中央文化公園 メタセコイアの並木道 2020.11.17.

私の秋送り 晩秋 11月の散歩道を楽しみしてくれる「野路菊」

「真実」との花言葉もあるが、どこにでもある花「気取らぬ身近な親しさ」の言葉が似あう
思いもかけず、道ばたで見かけると思わず「よう!!」と近づき、なにかうれしい気分。



11月になって街の街路樹の木々もすっかり紅葉。毎日の散歩で見上げる横尾山の山腹野路菊の丘も白くなり始め、晩秋の街角や山裾の道端のあちこちで一塊になって白い小菊が咲く季節に。

横尾山山腹が真っ白になると毎年この横尾山山腹の「野路菊の丘」で眼下に見える西神戸の海や街を眺めながらこの一年を思い浮かべて、ひと時を過ごす。今年は仲間や知人の逝去が続き、思いもひとしお。毎年11月真っ白になった野路菊の丘ですごく晩秋 私の秋送り。毎年かかかせぬ機会です。

■ コロナ禍の中で home page 和鉄の道・Iron Road を振り返って

コロナ禍の中で過ごした一年 「3密」自己規制神戸籠りの中でアッと過ぎた一年でした
今年は喜寿に 今できることを精一杯 あれも これもやろう……

でも、ほとんど県外へ出ることができず、また楽しみにしていた仲間との交流もなかなかできず。

特にこの11月は知人・仲間喪中の知らせが次々と届き、思いが次々と頭を駆けまわり、もう一度 元気な顔を見たかった。丘に登って今年も逝った仲間の秋送りを済ませ、気持ちも区切り、元気に前向いてとカラ元気です。

■home page も神戸籠りで たっぴり時間が来て、読み返し再整理に手を付け始めています。

一番はライフワーク「和鉄の道・Iron Road 日本の源流・和鉄探訪」

愛媛大村上教授グループ10数年にわたるプロジェクト「鉄の起源・ユーラシア大陸東遷の道探求」の報告を聴講させていただき、そのまとめ記録を掲載できたことで一区切り。ほっと一息です。

■次は個々バラバラに訪ねたたら製鉄探訪記の記事をどう整理するか……

絶滅を繰り返してきた多くの生物の中で 人類が生き延びてきた道が鉄と共に、

唯一人類だけが「相手を思う心」を持ち合わせにあったこと「ヒューマン」。

過酷な今の時代に人々が忘れ捨てようとしていることが、唯一人類が生き延びてきた道。

コロナ禍で壊れた社会の再建にそんな視点が無視されぬよう声を上げねば……と。

「鉄の惑星地球」産業の側面ばかりでなく、時代時代の中で人の営みに欠かせなかった「鉄」
そんな視点で記事を掘り起こしてみたい。新しい時代感がみえるかも……………
コロナ禍の中で、 そんな思いを広く伝えたいと。

また、重厚長大から情報・通信への時代変化と共に産業・社会を支えた鉄の影が随分薄くなっている。
でも、このポストコロナの新しい時代に 必ずや鉄は新しい顔を見せ、新しい産業を生むに違いないと期待している。
そんな鉄の姿も追ってみたい。

home page 「Iron Road・和鉄の道」に終止を打つことも視野に入れながら実現出ませんでした。色々考えたこの一年でした。本当に有難うございました。引き続き、ご指導のほどお願いします。

何はともあれ、近々の課題 早くコロナ収束の出口を見たい。行動自粛はもう本当にきついなあ・・・
ワクチン開発が今一つ希望の出口。これもみんなに行き渡るようにと期待しています。

勝手なことをばつばつ 他意なく、好奇心のみ。もともと我慢が苦手。ますますわがままに。心せねば……と。
「変えよう 変わろう でも変えてはならぬこともしっかりと」

健康でいることに感謝しつつ、知恵と判断力と行動力そして好奇心 この思いを失わぬようと。
とりとめもないことばかりですが、気持ちだけは前向いと。

また、困難の中にある仲間思いを馳せつつ エールを送ります

仲間がいる 仲間の元気はみんなの応援歌

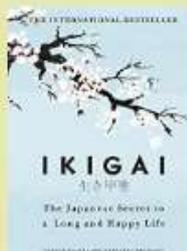
みんなでスクラム組んで 元気に今を

God Be With You!!

2020.12.5. 真っ青な空 近年にない暖冬 いつもの散歩を楽しみながら

From Kobe Mutsu Nakanishi

【4】Cool Japan 今世界の若者が評価する日本 「IKIGAI」と「EMOJI」



「IKIGAI」

「EMOJI」

先日NHKBS 日本在住の外国人日本在住の外国の若者たちが、今の日本を評価し、話し合う番組「Cool Japan」を見ていて、驚いた。世界の若者が一番よく知り、評価しているのは「回転すし」などとならんで、「IKIGAI」「EMOJI」だという。

「IKIGAI・生き甲斐」「EMOJI・絵文字」。今世界の若者はこの言葉をみんな知っているという。

ある若者は日本の面接試験で「あなたの生き甲斐はなんですか?」と聞かれて、目を白黒。答えられなかったと。

世界では「生き甲斐」やそれに類する言葉はないという。

ある日本在住の作家が日本で生き甲斐という言葉を知って、

日本の「生き甲斐」について解説した本「IKIGAI」を出し、世界でベストセラーになっているという。

番組で「自分の国にこのIKIGAIの言葉あるか」と聞かれ、一斉にみんなない。

でも「IKIGAI」の本はみんな知っている。目が白黒でした。

また、「EMOJI・絵文字」はみんなそのまま「EMOJI」で通用し、みんな使っているという。

その理由は世界の人たちが知らなかった価値観がそこにあり、みんな欲していたものだったと。

こんな素晴らしい価値があるとみんな驚き、共有できたから世界に広がったという。

「EMOJI」も同じ。メールやSMSなど その文面を見ても、全く感情が伝わらなかったのが、

いっぺんに見えなかった相手の表情や感情 伝えたかったことが文面から浮かんで来て、

瞬く間に世界のインターネットの世界に「EMOJI」として広がっているという。

日本というと半導体・ウオークマンなど冷たいハードが得意な国と受け取られていると思っていましたが、世界の若者たちはすでに日本の良さを世界標準に組み込みつつあると。日本観光のブームもこれなんだと。

予想もしなかった日本のCOOL JAPANにびっくりしました。

これこそ今一番世界に求められている「他人を思いやる心」日本が誇る多様性文化の賜物。

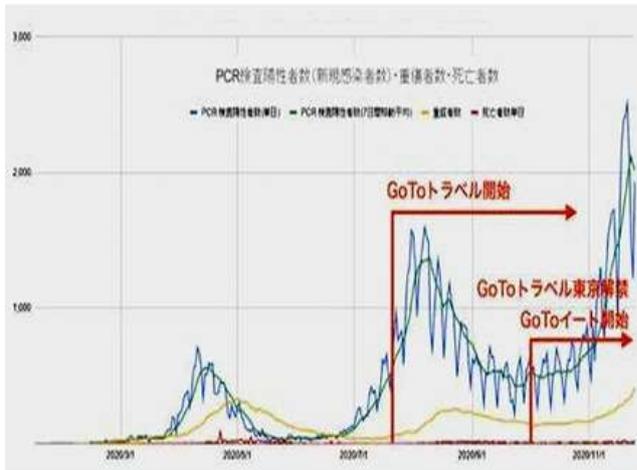
そして、はっと気が付く。日本の若者もそんな日本の良さを自分なりにくみ取り始めている。

無味乾燥のデジタル・情報の社会をソフトで温かい自分の世界に変えている。

コロナ後の新しい時代は若者たちに任せて、年寄りには主役を降りてフォローに
高度成長時代のごとくそれこそ「やってみなはれ!!」と。

●収録 収録1 コロナ感染者急増の3波襲来の中で、もう一度基本を問い直そう

コロナ禍2波がやっと峠を越えてほっと一息。
 みんなの「3密」行動節制が緩んで具体的な感染拡大の防止施策が示されぬ中で
 東京発信の楽観情報 経済と感染防止両立の大キャンペーン go to travel
 これらが都市部の気のゆるみを誘発し、人の移動接触の急増を招き、
 3波襲来 感染の急拡大を招いている
 コロナ感染者急増の3波襲来の中で、もう一度基本を問い直そう



この冬第3波 自衛のための
 コロナ禍対策

2020.12.3.NHK朝のニュースより

我々が頑張らねばならぬことが、解りやすく解説されていまして、ご参考になれば

1. 街で 3密を避ける飛沫対策と換気
 主役は飛沫 接触感染は脇役
 家族以外とマスクのない顔を近づけた会話・食事を避ける
2. 家で
 ●外から家に帰った時の1回を大切に
 家の全員がウイルスを持ち込まない対応
 ●手洗いが最重要
 家の全員がやるのがこの冬の感染対策

老いも若きも みんなの自制で
 このコロナ3波を食い止めよう
 God Be With You!!
 がんばろうKobe! がんばろう日本!
 2020.12.3. From Kobe

新型コロナウイルスの猛威が止まらぬ師走 収束の道はみんなの願い・
 医療従事者の皆さんの寝食をいとわぬ対応で、なんとか持ちこたえている現状
 医療現場の皆さんへ ありがとう 御身も大切に!! がんばろう 日本!!

コロナ感染者、指数関数的に増加 「8割おじさん」が著書出版

11/25(水) 17:09 配信 99 KYODO



インタビューに答える
 京都大の高橋 博教授

新型コロナウイルス拡大防止策として人の接触8割減を提言し「8割おじさん」として知られる西浦博・京都大教授が、これまでの取り組みを振り返る著書「新型コロナウイルスからのちを守れ!」(中央公論新社)を来月出版。25日に報道各社のインタビューに応じ「都市部で感染者が指数関数的に増加している」と述べ、現状に懸念を示した。

西浦氏は感染症の数理モデルが専門。香先の第1波の際、厚労省クラスター対策班のメンバーとして接触を約8割減らせば歯止めをかけられると試算した。現在の状況は、第2波と比べ増加スピードが速いと指摘。「政策として責任を持って接触の削減をやらないといけな」と語った。

インターネットより 2020.11.26.



1・2波と3波の感染者状況で 一番の違いは、都市の巷に数多くの感染者を残したままで対策が打たれなかったこと。「若者は重症化せずに回復するので、若者対策に目を向ける必要はなし。

また、1・2波の経験から、治療法がかなりわかってきたので、急速な重症化防止・回復治療法が病院にノウハウとして蓄積され、誰いとはなしに、本当はインフルエンザ並みの怖さなんだ」とわけのわからぬ発信。専門家が言うならばまだしも、わけのわからぬか TV コメントーターや都合の良い解釈しかしない政治家が乗っかり、「経済の立て直しとの両立。経済再建のため、人の動きの活発化こそ今必要なんだ」と「Go to Travel」へと突き進む。何の根拠もなしに、峠を越えたとお題目のごとく「3密」自制を唱得ながら、患者数集計とその発表にのみに走る。これは、3波の今の街の状況が1・2波の状況と全く違っていることを全く理解せず、対策もなおざりのままコロナは収束に向かうとの論である。

大丈夫と動き出し、その後の状況は一変。コロナ感染は都市部を中心に急拡大し、指数関数的な急増を続け、治療に当たる関係者の努力ににもかかわらず、患者数は増え続け、病院はもうパンク寸前に。

1・2波と3波との決定的な違いは下記の通りで、もう現状で1・2波のごとく、クラスターをあぶりだし、感染者を隔離できなくなっている。3波では市中に感染者が多数いるのである。このことを誰も指摘しない。もうびっくりだ。

◎ この第3波では、感染した人の感染源・クラスターが半分近く不明。

多くの感染者が街に残っていることを示し、クラスターを今や追いきれなくなっている。

仕方なしとでもいうか、クラスター撲滅に必死になった1・2波の状況と全く違う。

1・2波の時には町からほぼクラスターが隔離一掃されていた。

しかし、今は街中で、職場で ちょっと「3密」が緩めば感染の危険は急拡大。そしてそれが家まで持ち帰られる。そんな構図が見えている。

◎ 東京や都市圏のPCR検査の急増そのものは感染者発見に極めて有効。

しかし、発見された感染者の隔離処置は極めてあいまいという。若者は厳しい隔離・治療せずとも直るのだという。そんな感染者が2次・3次感染者とともに街にどんどん増えている。

現に、家庭内感染・職場感染など「3密」対策の抜けたところでの感染がそれを示している。

◎ 感染した若者もまた隔離管理しなくてはならないのだ。

都市の巷では みんながみんな感染キャリアーになって、指数関数的な感染者数増大を招いている。

こんなことをいうと、それこそ病院崩壊やと批判を受けそうであるが、今それをクリアーにしておかないと、都市封鎖・経済崩壊の道しかない。感染者はいわゆる2週間隔離の徹底は本人の意思・重要性認識があればやれるはず。少なくとも行動規制と自己隔離の認識場で切ると思うのですが……

そもそもGo to Travel は感染が収束に向かい、落ち着いた中で行われるべき施策であったはず。

でも、経済再建優先の錦の御旗で、停止されず、人の動きは節制から解放されたように活発化。

一機に感染者急増へ。それでも停止せず、的外れな「年寄りと疾患のある人のみ動くな」と。

本末転倒ではないか……

なにひとつコロナ撲滅策を講ずることなく、ただひたすら、個人の自制に頼り、ワクチン開発をまつ。

これが日本の頂点同調、トランプと同じスタイルだ。

根幹となる感染対策に目を向けず、一方的に経済的理由最優先で、一番の感染拡大誘発要因「人の動きの活発化」を進める施策。愚策と言わざるを得ない。全く自分に都合のいいことにしか目を向けぬ発信・政治家の不勉強が露呈したコロナ対応。

では、我々はどうすればよいのか……

巷の愚策に惑わされず、まだまだ、先の見えぬ厳格な「3密」自制と家籠りの城をしっかりと守らねば……

救いは明かりの見てきたワクチン 日本は相当数の開発ワクチンを確保しているという。

まあこれは、政府の唯一のヒット施策と言えるようになるかもしれない。

1・2波の感染防止対策のリーダーで、なぜか新政権の対策会議メンバーから外された感染拡大予測シミュレーションの専門家 西浦元北大教授(現京大教授)の3波の現状を見る視点が新聞に掲載されていたので転載。

今もしっかりしたばれない視点だと思います。

コロナ感染者、指数関数的に増加 「8割おじさん」が著書出版

11/25(水) 17:09 配信 99



インタビューに答える
京都大の西浦 博教授

新型コロナ拡大防止策として人の接触8割減を提言し「8割おじさん」として知られる西浦博・京都大教授が、これまでの取り組みを振り返る著書「新型コロナからいのちを守れ！」（中央公論新社）を来月出版。25日に報道各社のインタビューに応じ「都市部で感染者が指数関数的に増加している」と述べ、現状に懸念を示した。

西浦氏は感染症の数理モデルが専門。春先の第1波の際、厚労省クラスター対策班のメンバーとして接触を約8割減らせば歯止めをかけられると試算した。現在の状況は、第2波と比べ増加スピードが速いと指摘。「政策として責任を持って接触の削減をやらないといけない」と語った。

インターネットより 2020.11.26.

この冬第3波 自衛のためのコロナ禍対策

2020.12.3.NHK朝のニュースより

我々が頑張らねばならぬことが、解りやすく解説されていたので、ご参考になれば

- 街で 3密を避ける飛沫対策と換気
主役は飛沫 接触感染は脇役
家族以外とマスクのない顔を近づけた会話・食事を避ける
- 家で
●外から家に帰った時の1回を大切に
家の全員がウィルスを持ち込まない対応
●手洗いが最重要
家の全員がやるのがこの冬の感染対策

新しいも若きも みんなの自制で
このコロナ3波を食い止めよう
God Be With You!!
がんばろうKobe! がんばろう日本!
2020.12.3. From Kobe

新型コロナウイルスの猛威が止まらぬ師走 収束の道はみんなの願い・
医療従事者の皆さんの寝食をいとわぬ対応で、なんとか持ちこたえている現状
医療現場の皆さんへ ありがとう 御身も大切に!! がんばろう 日本!!

